



メイン会場の角打ちでお気に入りの銘柄を注文する来場者

新企画の横丁も大にぎわい 城島酒蔵びらき

2月15日と16日、町民の森と城島・三瀬・大善寺町の七つの開放酒蔵を会場に「城島酒蔵びらき」が開かれました。延べ約9万人の来場者が訪れ、各蔵自慢の新酒を堪能しました。今年の新企画「三瀬ちよいのみ横丁」では、久留米のおつまみに合わせた各蔵の酒を提供。特設の座敷席が埋め尽くされていました。

初参加の松尾竜也さん（福岡市）は「いろんな蔵の新酒が目当て。ワインと比べても飲みやすく、とてもおいしいです」と話しました。



直前の雨でぬれたトラックで懸命にたすきをつなぐ選手たち

強豪国の速さを体感 ケニア選手と中学生が対決

2月16日、久留米スポーツセンター補助競技場で、ケニア選手を招いて、交流イベントが行われました。日本で活躍するケニア選手の3人と、市内の中学生の72人が1500m走のリレーで対決。1人で走るケニア選手に中学生4人1チームで競り合いました。対決後は速く走ることを聞いたり、サインをもらったりするなど、交流を深めました。

植木帆希さん（城南中2年）は、「身をもってケニア選手の速さを感じることができて良かった」と話しました。

市政の動き

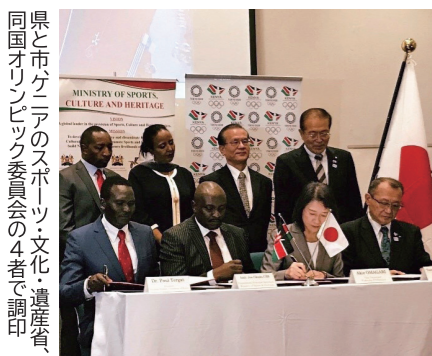
ケニア事前キャンプ 詳細決める調印

ケニア共和国は東京2020五輪・パラリンピックの事前キャンプを久留米で行います。市と同国は、受け入れ期間や種目など詳細を取り決める確認書を交わしました。

2月13日、首都ナイロビで行われた調印式には中島年隆副市長が出席。「福岡県との連携の上、オール久留米で受け入れ準備を進めています。ケニアとの絆が一層深まることを願っています」とあいさつしました。

◎体育スポーツ課（☎0942・3009226、FAX0942・3802259）

久留米市東京オリ・パラ事前キャンプ特設サイトへ
詳しくは、QRコード



県と市ケニアのスポーツ・文化・遺産共同オリンピック委員会の4者で調印

大学生が、久留米市の仕事取材し、発信するシリーズです

くるめ学生通信

49 なぜ鳥の動物園なの？

今回の記者：久留米工業大学（4年）田中遼太さん



施設によっては柵も無く、観察できる距離の近さに驚きます。鳥たちの日常に入り込めるのは不思議な感覚です

小さい頃、遊びに行っていた鳥類センターが最近テレビで話題になっていました。そこでなぜ「鳥」なのか疑問に思い、鳥類センターの広田弘禎園長に話を聞きました。

鳥類センターはどのようなきっかけでできたのですか。

昭和27年、戦後復興のために市民の有志が動物園の設立を企画したことがきっかけでした。今の三本松公園に久留米市動物園として開園。上野動物園から当時珍しかったクジャクを譲り受け、繁殖に力を入れました。開園から10年で1000羽の繁殖に成功。「クジャクの町久留米」をうたって、全国的にも有名になり、鳥類を中心に飼育するようになりました。昭和39年、鳥類センターに名前が変わり、昭和45年に現在の中央公園に移転しました。

楽しみ方を教えてください。

現在86種、約6000頭の動物を展示し、間近で観察できます。中には現在生息数が少なくなっ

ている希少種のニジキジヤタンチヨウなどの鳥もいます。名前のプレートで生態や飼育の中で発見したことなどを紹介。鳥たちをもっと深く知ることができ、モルモットやウサギと触れ合えるコーナーも人気です。

新しい取り組みなどはありますか。

2月16日にリクガメ舎を新たにオープンしました。寒さに弱いリクガメを冬でも観察できるようにするためです。インスタグラムで鳥たちの面白情報を発信したり、クジャクのライブ映像をホームページで配信したりもしています。鳥たちの魅力をしっかり伝えて、来園してもらえるような工夫をしています。

訪れた人に学んでほしいことはありますか。

鳥類センターは、繁殖やけが



触れ合いは動物を傷つけないよう慎重に

をした野鳥などを保護する施設でもあります。将来は、ひなを育てる親鳥の姿や保護された鳥などが見られるバックヤードツアーのようなものができるかと考えています。動物たちの姿を観察したり、実際に触れ合ったりして、命の大切さを学んでほしいですね。

いろいろな動物を街の中心地で観察できることの珍しさを再認識しました。大人になった今では、生態について深く知るといような、子どもの頃と違った角度で見学できました。これからは動物と触れ合う中で、ただかわいがるだけでなく、動物の命の重さを考えていきたいです。

◎広報戦略課（☎0942・3009119、FAX0942・3009702）



おりに掲げる紹介プレートは職員の手作り

市出身藤吉さんが PRアンバサダーに

2月4日、福岡県アンテナレストラン福岡華（東京都）で農産物の販路拡大を図るトップセールスを行いました。市出身で俳優の藤吉久美子さんが「くろめ農産物PRアンバサダー」に就任。野菜ソムリエの資格を持つ藤吉さんは「久留米の農産物をいただいて育った。多くの人がおいしさを知ってもらえるようPRに努めます」と意気込みを語りました。

◎農政課（☎0942・3009163、FAX0942・3009717）



市内五つのJAの組合長（後段）と藤吉さん（右）、大久保勉市長（中央）、永田一伸市議会議長（左）

市ホームページ「首都圏での農産物のトップセールス」へ
詳しくは、QRコード

